

市民学習会

小・中一貫教育が子ども成長にとってどうなのか
その教育効果は検証されていらない！

泉北教組も構成団体である「和泉市の子どもと教育を守る会」は、7月26日、市民学習会を開催しました。講演は、和光大学教授の山本由美さん、テーマは「小・中一貫教育ってなあに？子どもの成長から考える」でした。

講演に先立ち、「小・中一貫教育について」「学校給食民営化について」の和泉市の状況を報告がありました。教職員や保護者に十分な説明もなく進めていく市教委のやり方の問題点がうきぼりになる報告でした。

講演では、小・中一貫校がどのように拡大してきたのか、また、その実態について過去の資料や、アンケート調査をもとに丁寧な説明がありました。



講演する山本由美さん

子どもたちの未来

山本さんは施設一体型の小・中一貫教育が及ぼす、子どもにとっての影響について、次の点を指摘しています。

- ・そもそも小・中一貫教育による教育的効果が検証されていない。効果があったといわれている例も、小・中一貫教育でなくてもできることばかり。
- ・小学校のリーダーとして大きく成長する5、6年生の成長・発達を保障することが困難になる。
- ・小学校文化が切り捨てられ、小学校の中学校化がこりやすい。（制服、定期テスト、校則など）

「不平等」も成長の鍵

これまで、小・中一貫教育は、「小・中の段差を緩やかにす

ること」（中1ギャップの解消）を根拠に進められてきました。しかし、中央大学の都筑学氏調査結果から、中学校への「不安」（期待だけでなく）も成長への鍵となる、と述べています。

小学校から、中学校に移行するとき、子どもたちは、中学校生活に大きな期待や不安を抱きます。しかし、子どもたちはその中で、大きく成長するということです。つまり「段差を解消することが、子どものためになる」という論理には根拠がなく、むしろ、子どもたちから発達・成長の



ファイヤーダンス講習会

7月19日、キャンプファイヤー講習でもおなじみの、ファイヤーダンスを和泉中学校の馬場先生に講習していただきました。

今回は自分専用のトーチ作りに挑戦しました。ファイヤーダンスの取得にはまずは、自分の身長にあったトーチが必要です。材料は非常にシンプルで、植木鉢の支持棒二本、針金、釘、古タオルだけです。



実際に作ってみる

和泉中学校の技術の先生の協力のもと、大きな工具を使いながら、一人ひとりが自分だけのトーチをつくることができました。温かく、優しい指導のもと、参加者は楽しんでトーチをつくることができました。今後は、このトーチを使って、練習に励みたいと思います。練習用DVDもあるので、ほしいという方は、泉北教組に連絡をください。



トーチの作り方の説明を受ける参加者

機会を奪うことになるかもしれないのです。

参加者の声

○きちんとわかりやすいお話でした。この問題は学制の変更等、日本の教育を大きく変えてしまう動きの中でとらえる事が大切と思いました。子

ども達が政府・財界の都合でくちやくちやにされる事が無いよう、監視していく事が大切だと思います。

○これまでの理論的運動的な蓄積を集約して、新しい理論的展開をきくことができました。展望の見える有意義なお話でした。